【115】

氏名	藤 井 淳 一
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博乙第 3313号
学位授与の日付	平成11年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Angiography for Assessment of Preoperative Chemotherapy in Musculoskeletal Sarcomas (骨軟部悪性腫瘍の術前化学療法効果判定における血管造影の検討)
論文審査委員	教授 平木 祥夫　教授 田中 紀章　教授 赤木 忠厚

学位論文内容の要旨

悪性骨腫瘍25例、悪性軟部腫瘍23例に対してdigital subtraction angiographyを施行し、化学療法後の組織学的効果との関連を評価した。画像による効果判定は、腫瘍濃染、腫瘍内血管網増生、動脈偏位、ひっぱり像、動脈拡張、動静脈シャント、動脈狭窄、血管閉塞、径不同血管像、血液貯留像、灌流静脈拡張の11所見について、術前化学療法前後の変化を検討した。Grade1：不変または悪化、Grade2：改善、Grade3：著明に改善の3段階に分類し、Grade2、3を効果ありとした。組織学的効果判定は、組織学的壊死率をHuvosらの方法で4段階に分類し、Grade3、4を効果ありとした。骨腫瘍では、全例腫瘍内血管網増生と腫瘍濃染を認めた。軟部腫瘍では全例で腫瘍濃染を認め、また21例で腫瘍内血管網増生を認めた。今回の検討では腫瘍濃染、腫瘍内血管網増生、動脈狭窄、ひっぱり像の変化が、組織学的な効果と関係が深く、この4所見が化学療法後Grade3となるとその症例の90％で組織学的に良好な抗腫瘍効果が得られており、特に重要な所見と考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は術前化学療法の前後にdigital subtraction angiography(DSA)を施行した骨軟部悪性腫瘍48例について異常血管造影所見を分析し、化学療法後の腫瘍切除標本の組織学的所見と対比検討した臨床的研究である。その結果、従来報告されていた腫瘍内血管網増生と腫瘍濃染に動脈狭窄、ひっぱり像を加えた4所見が組織学的な効果をよく反映し、DSA像上の特に重要な所見であることを明らかにしている。これらはDSAによる術前化学療法効果判定における重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。